

人口減少時代におけるエルゴフィンガーを使用することでの優位性について



戸塚駅前トリコ歯科
(横浜市戸塚区)
院長 中原 維浩

国立社会保障・人口問題研究所によると、2030年にはすべての都道府県で人口が減少し、2045年までに日本の総人口は1億642万人になると予想している。今後30年で2000万人以上減少することになる。

とりわけ、ひどい落ち込み方をするのは都市部より地方で3割減が当たり前と見込まれていて、さらに高齢化も確実に進む。

ちなみに、2045年以降も人口減少は続き、47年後の2065年には8808万人、65歳以上の老年人口比率は38.4%となり、ほぼ4割が高齢者になる。生産年齢人口比率は51.4%に落ち込み、現在(2015年)の60.7%を大きく下回る。働ける人が2人に1人の時代になりつつあるということだ。

今後、歯科医院は、就活市場において新卒を獲得するのがより困難な時代になる可能性が高いと考え、アシスタントがつかなくなり、歯科衛生士だけでなく、歯科医師もオペ以外でアシスタントをつけられなくなる時代が来るかもしれない。

幸いにも私は研修医時代からアシスタント無しで診療することも多く、様々な排唾管などで工夫をして1人診療をしてきたので、開業後も必要な時だけアシスタントを入れて診療をしている。

しかし、新人育成が難しく、思ったところにおいてくれずストレスを抱える先生、歯科衛生士も多いのではないかと思います。

そこでエルゴフィンガーの出番である。

私の考えるエルゴフィンガーを使用する優位性は3つある。

まずはアシスタント問題である。

アシスタントの確保が難しくなり、人件費も高騰する今、エルゴフィンガー1本でアシスタントの一部業務を担ってくれるならこれ幸いである。

次に、マイクロやルーペなど拡大視野での診療が増えてきている昨今の診療の現場では、ハイゴフォーミックなどの排唾管も必要不可欠であるが、ルーペでの診療をしているときは、私は必ずエルゴフィンガーを使用する。なぜかという、術

野に近いところにバキュームの先端がきてくれるのでクリアな視界を得られやすく、また喉元は排唾管でのケア、術野をエルゴフィンガーでケアすることで手元に集中しやすくなるメリットも得られる。

最後に、デンタルワールド30号でも紹介されているが、筋骨格障害や手根管症候群(CTS)などになり、長く働けない医療従事者のためにも人間工学エルゴノミクス由来の「エルゴ」フィンガーが大変オススメです。

事実、私の右腕となってくれている歯科衛生士が、首の疲労感や腱鞘炎などで悩んでいたが、慣れればかなり楽な姿勢で診療ができるようになったとのことだ。

エルゴフィンガーのような時代に即したツールを活用し、より良い診療を提供し続けることで患者さんの満足度を上げていきたいと考えている。



肩の上がない自然な姿勢



ミラーも併用できる



上顎臼歯部でも広い視野を確保